秋田大学教育文化学部附属小学校　校　報

はとの子だより

No.９　令和５年１２月２１日（木）発行

学校教育目標　自律　のびのび　きびきび　わくわく

はとの子学習発表会の四半世紀

「いち、に、さん、…」１年生の子どもたちが校庭で準備体操をしていると、大きなくじらぐもが空に現れました。

この朗読にあわせて、子どもたちは銘々に空を見上げました。

体操がおろそかになってしまい空を気にする子。体操の手を止めて呆然と空を見上げる子。自分が見ているものが本当なのか確かめるように他の子と目を合わせる子。

見ているものは同じでも、それぞれにリアクションは異なります。入学して半年ほどの１年生が、そのような人間の真実を捉えて、目の前のくじらぐもに向き合う自分を表現しました。

１１月１１日（土）に開催したはとの子学習発表会は、今年でちょうど四半世紀の歴史をもつ学校行事です。今年本校に赴任したある先生が、この行事を終えて一言感想を話してくれたのですが、その言葉がこの発表会の特徴を的確に言い表していました。「他の学校の学習発表会だと、たくさんの小道具を使って表現する場合が多いのだけれど、うちの学校の場合は、声と体の表現で勝負していて、なんだか品格があるなあと感じました。」

この感想を聞いて、四半世紀前にこの発表会を立ち上げたねらいがどこにあったのかを思い出しました。

朗読や合唱、身体表現によって、子どもたちは「本当の自分」を発見する。「本当の自分」とは、自分の中に眠っている、あるいは顕在化していることの自覚がない上記10点の可能性を発見し、どこまでも伸ばしていくことである。発見には教師や保護者、仲間の存在が不可欠である。それは、独力でこれらの資質・能力を発見することが困難だからである。

「上記１０点の可能性」とあるのは、当時の本校で明示した「表現活動で身に付く１０

の資質・能力」のことです。それらは、**(1)知的好奇心に基づく問い続ける力、(2)教材や教師の言動、友達の表現を解釈する力、(3)よいものを模倣する力、(4)よいものを感じ取る感性、(5)ねばり強い学びの足腰、(6)集中する力、(7)全体構成や友達の表現に対応する力、(8)集団での空間を把握する力、(9)意思通りに制御できる歌唱力・朗読力・話し方、(10)身の回りのひと・こと・ものを自分のこととしてとらえる力** でした。

おそらく感想の中で「品格」と言われた部分は、これら１０の資質・能力が子どもたちの姿に具現化されて表れ出たものを、研ぎ澄まされた感性で受け止めてくださったからこそ生まれてきた言葉ではなかったかと思いました。

２０年前に本校の発表会をご覧になった東京大学名誉教授の吉田章宏先生は、本校でのご講演で、次のように語られました。長くなりますが当時の記録から引用します。

例えば、物事を丁寧に仕上げていく繊細さと粘り強さもありましょう。「教養」の基本である、他者の世界に入り、「他者の視点に開かれ」、他者の視点を経験する柔軟さ、などが容易に考えられもしましょう。ここで言う他者には、少なくとも、歌詞と歌曲の作者たち、教師、他の子ども達、そして、発表会の参加者たち、が含まれるでしょう。さらに、自らの声を聴く自己理解に繋がる経験、芦田恵之助の「読むは自己を読むなり」は、ここでの自己理解にも、繋がっているように思います。そして、これらを通して、深く豊かな人間理解への道が開けてくるのです。今日の子どもに多く見られるとされる、粗暴さ、自分勝手さ、我がままさ、傲慢さ、無知、などを、根っこから、着実に超えて行く道がそこに開けてくるのです。

こう考えますと、他の教科の学習と区別して、「表現活動」の学びが、「教科学習」の学びの邪魔になると考えることの、人間の「学び」に対する浅さ貧しさも、はっきりと見えてくるように思います。そのことを理解するには、「表現活動」の一つ一つにおいて、子どものひとり一人が何を経験し、何を学んでいるかを、具体的にありのままに見て、学ぶことを実現しなければなりません。「表現活動」は、子どもにとって、新しい世界へと導き出され導きいれられる経験なのです。そして、これは、私たちの意味での、「授業」であることは、もはや、あまりくどくどと申すまでもないことでしょう。

学校行事の精選が働き方改革の一環として進められている学校も少なからずあるようです。学習発表会などは、そのリストラクション候補の筆頭に挙げられることもあります。発表会の時期が近付くと音楽の授業ばかり増える、何度も何度も同じ事ばかり繰り返す、やるたびに内容が変わる…など、その非生産的な側面が、子どもたちから不満となって聞こえてきたこともありました。

しかし、こうして四半世紀にわたって受け継がれてきたのには、ここまで述べてきたような「学び」としての意義を、歴代の子どもたちと先生方が「学校文化」として受け継いできたからにほかありません。
冒頭で紹介した１年生の姿が、それを物語っています。

第２回オープン研修会

１１月２８日（火）に開催した第２回オープン研修会では、６年生の道徳と５年生の体育の授業を公開しました。県内外から４０名近い教育関係者から参加いただきました。
６年生の道徳では､教材である物語の登場人物になりきってインタビューをするという、道徳の授業としては全国的に見ても珍しい学習活動に取り組む子どもたちの姿を見ていただきました。はとの子学習発表会と同様に、子どもたちは、他者の姿を借りながら実は自分の道徳に対する価値観を伝えているのだな､と実感できる場面がたくさんありました。

参観にいらしたある小学校の校長先生からは､「緻密な教材研究の基に行われた授業に感銘を受けました。（中略）授業の最後に「素敵な４５分間をありがとう」と子どもたちに言える授業を本校でも実践していけるよう、努力していきたいと思います。」という感想をいただきました。

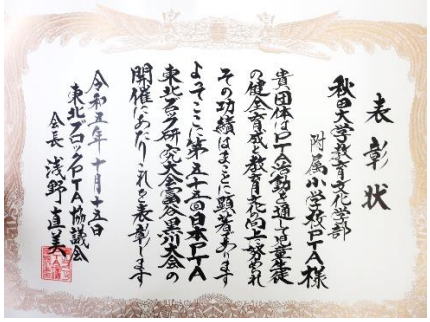
５年生の体育では、台上前転を美しく表現するための運動のコツについて、タブレット端末を活用しながらアドバイスし合う子どもたちの姿を見ていただきました。
踏み切りに課題があるために台上で回りきれない子、脇が開いてしまうためにバランスを崩してしまう子など、子どもの数だけ課題があります。互いが抱えている課題を発見し、助言し合うことを通して技の完成度を磨くことが、５年生に課せられた目標です。タブレット端末で動画を撮影し､何度も再生しながら互いの技を磨くコツを探る粘り強さが随所に光っていました。
参観にいらした大学院生からは､「安定感や美しさといっためあてに向けての練習を支える材料として､（タブレットの活用は）有効であると感じました。みんなが使えるコツを出し合うことを目指してコラボノートを活用している点に関しても、タブレットを見返すことで子どもの力で目標を達成する主体的な学びに向かう手法として素晴らしいと感じました。」という感想をいただきました。
２授業とも、最先端の手法を用いながら、教育の不易である子どもの美しい姿を引き出す取組でした。実はこのオープン研修会も、はとの子学習発表会と同じ時期に始まった歴史ある教育活動です。２０年にわたり、県内外からいらっしゃる教育関係者の方々と、膝

を交えて学び合う中で、本校の子どもたちの学びのよさや強みを明らかにしてきました。
　６月に開催した第１回オープン研修会、９月の公開研究協議会、そして１１月の第２回オープン研修会、そしてはとの子学習発表会と、４つの大きな山を乗り越えて、子どもたちのよさや強みとともに、本校が積み重ねてきた学校文化の深みも実感することができました。
　来年度は、いよいよ大きな節目となる創立１５０周年を迎えます。長らく受け継いできた「学校文化」を、どのようにして発展させていくか、いまから楽しみでしかたありません。

祝　全国合唱コンクール銀賞

　１１月１２日(日)に福岡市のアクロス福岡で開催された「第７６回全日本小学校合唱コンクール全国大会」で、本校の合唱部が、昨年度に引き続き２年連続で「銀賞」に輝きました。前日の午前中にはとの子学習発表会で歌声を披露した際には、夏に出場したＮＨＫ合唱コンクールの時よりもまた一段と響くようになった歌声で、全校の子どもたちや保護者の方々を魅了してくれたことから、翌日のコンクールへの期待が高まっていたところでした。発表会終了と同時に福岡へ出発するという強行軍でしたが、旅の疲れで体調を崩すことなく、福岡の地でしっかりと歌声を響かせることができた部員の、自己管理の力も素晴らしかったと思いました。おめでとうございました。

ＰＴＡ活動が表彰されました



　本校のＰＴＡが、第５５回日本ＰＴＡ東北ブロック研究大会富谷黒川大会でその取組による功績を認められ、表彰されました。
　コロナ禍の大変な中にあっても、その歩みを止めることなく状況に対応し、連携を深めてくださった成果です。
　日頃からの本校の教育活動に対するご理解とご協力に改めて感謝申し上げるとともに、これからのますますのＰＴＡ活動の発展を祈念しつつ、お礼とご報告をさせていただきます。本当におめでとうございました。

　先日、嬉しい知らせがありました。本校の職員玄関前に、定期的に美しい生け花を飾ってくださっている村井雅豊先生が、県芸術文化章を受賞されました。
　ＰＴＡ活動を初めとして、ご家庭や地域の方々の善意と献身の上に成り立っている教育活動であることに、つくづく感謝の気持ちを噛み締めた年の瀬です。どうぞよいお年をお迎えください。